

時 71

707

真佛法の要義

有道千差異入門屬繫緣到達根元斯  
真佛法搜心地應是當時活世尊  
一言真語值千金一切藏經轉苦心直  
入單刀知活處放光慈眼小觀音

明治廿八年乙未元旦

翠山濕題

71  
70  
70  
真佛法のこと

根信教會長

梅村翠山山口述

仙居の天竺の寺よりへて人の心を

いとよく研ぎ出しの法あり後ち又死人蘇れ

の法あり後ち又死人蘇れのこめよの

法あり後ち又死人蘇れのこめよの

法あり後ち又死人蘇れのこめよの

法あり後ち又死人蘇れのこめよの

法あり後ち又死人蘇れのこめよの

法あり後ち又死人蘇れのこめよの

よ七千餘巻とらふ大教よありーのなるいふ其の  
仏法と知るぬ人の經文と決はよよみ覺てしむるの  
時なりとなきるの仏法の知られたぬものとさむるも仏の  
とくへの心選作とせらちのむくぬらう仏法が  
本玉は法の一より文字の種とあり言うは泥と仏  
のさしゆりゆの執弄のものとありて其の背の事なきは  
添て却て前生の精神となきるなりとせしむる故と文  
字は仏法なく仏法より文字ありてとせしむる佛法と  
何ののぞ只人の心の外に彼の仏法あるものなり經  
の心外無別法と云ふ界唯心造とのらむなりとせしむる  
佛の我がまらうの理の目よあらとれ耳よあらとれ鼻

の中よあらとれ又身よも觸して衆生も喜ぶとて  
一やまの心ありてこれと根とのと根と由又と塵  
の境界とのらうりこれが前生の迷ひの根とありて  
なりとせしむる食よくむくむる事のつくはんぼとて  
我かららうらうの心ありて迷ひなきの昔れは一切の經  
文よのせしては又身より直とせしが人の所作と画と  
結し又書付たやあらぬものよて出家のそのありて  
一切前生よさしむるは見る見るの役人あらとれ今も  
の世なれば形ちの生れよとて迷ひの在りて覺るとして

教は佛法とて強ち寺のみにあらず出處もあつたり  
知るといふ程のことよあらざれば必竟に只已事の心  
を某法とて佛法とお持して信ぜられたるが故であら  
ざるものであらず無智なる女人も一信一向は仏の法  
實あるをいざしとて文て信ぜれば生れぬたも牛馬の仏  
性があらざれて誠の及ばざること交合あり仏やをさ  
つて殊更に怒りものゆゑはあはれいとも人と持前の  
牛馬の性を知りたる時が別ち仏ありがさつたり釈  
迦ももてめは悉多太子として天竺の國王の梓よて只  
の人なれども志一深くして我が生るの牛馬の性を悟

り知りしより考へて進めて我も人あり一切の衆生も  
人あり同じ人よてこの天地のるよ一はた衆生一は  
ら牛馬の良心を知らざるもや衆のたぐひはひび  
しくあて日夜は迷ひ惑ひたりして其の心一は  
心一終つてはよしかばも衆の心へ千たてたる心あり  
公平を私の我ありの善心よりして國王となすべし  
身を古くしては片足はしてのよりも心あく捨て去て  
切衆生のるよこの善の佛法を説き示して天竺國を  
あちこちとて強めむの人のあすしめ諭したるものが今の種  
文は残りし文あり教は佛法の天竺の國土人良を

治むこと一として天子の國學あり抑も仏法のとし  
 へうして世を治むの心を治む。法として一室内して親も  
 子も孫も召仕もこれの心があつたれば一室か合  
 して一風なるともあつた。目も心もあつたなり。邦の  
 ごとく家々があつたれば一町一々村もあつた。一郷一  
 郡もあつた。一國もあつた。ゆゑに天子の統より夫  
 下一統と治めずして自然とあつた。ゆゑに天子の  
 一これとあつた。ゆゑに天子の統より夫下一統と治めずして自然とあつた。ゆゑに天子の  
 裁判も諸の規則もあつた。ゆゑに天子の統より夫下一統と治めずして自然とあつた。ゆゑに天子の  
 天子より下等民もあつた。ゆゑに天子の統より夫下一統と治めずして自然とあつた。ゆゑに天子の

を治めしむれば他人の危むらぬ。ゆゑに天子の統より夫下一統と治めずして自然とあつた。ゆゑに天子の  
 ことが親類のせいの基本の仕組も一統と治めずして自然とあつた。ゆゑに天子の  
 むづかしきことあらざれば世の世はあつた。ゆゑに天子の統より夫下一統と治めずして自然とあつた。ゆゑに天子の  
 すればそれで仏法の満ちた。ゆゑに天子の統より夫下一統と治めずして自然とあつた。ゆゑに天子の  
 は文字の言のせいでさうだ。ゆゑに天子の統より夫下一統と治めずして自然とあつた。ゆゑに天子の  
 あつた。ゆゑに天子の統より夫下一統と治めずして自然とあつた。ゆゑに天子の  
 それゆゑに世を治む。ゆゑに天子の統より夫下一統と治めずして自然とあつた。ゆゑに天子の  
 一の心も千に返る。ゆゑに天子の統より夫下一統と治めずして自然とあつた。ゆゑに天子の  
 だゆゑに世を治む。ゆゑに天子の統より夫下一統と治めずして自然とあつた。ゆゑに天子の  
 と天子の統より夫下一統と治めずして自然とあつた。ゆゑに天子の

法仙乃として、その法がある限り、これを我が本心  
 の確と受けおいて、我がその心なるもの、  
 の直打もなす、その心なるもの、  
 も、近乃が若より、  
 今、即今、備も、  
 も、  
 も、  
 我が心と同、  
 かり、  
 んと、

一、古人の心、  
 伸ぬ人があり、  
 よ、  
 て、  
 心、  
 足、  
 お、  
 も、  
 り、  
 の、

自由なるものあらば何れも曲り我が心  
 から削り曲してあるものあればその大平の心曲て  
 曲るとあるは禮の心ゆへに曲りたるものなり  
 ならぬこれに終りしは曲れども曲る心あり  
 仕度しむるは曲りしは曲る心あり  
 の心ありは曲りしは曲る心あり  
 の心ありは曲りしは曲る心あり  
 同様の人がたがひよ都合よくお合しむるは曲る  
 由なる曲りしは曲る心あり  
 ようなる曲りしは曲る心あり

あるものあらば何れも曲り我が心  
 治まれば力も行と我知らば我が心の曲りが一寸の  
 君もまれば心も曲りしは曲る心あり  
 善徳はありしは曲る心あり  
 交けて合点があつたは曲る心あり  
 うあるは曲りしは曲る心あり  
 法は法なりしは曲る心あり  
 これを以て根本とあるは曲る心あり  
 又の心ありしは曲る心あり  
 中よりあるは曲る心あり

と申すにたゞの地獄のみの知りの人と云ひては此の世に  
あつてもなほ其の知りたる隣の地獄に定むるを  
やんば此の世に我が地獄より少くもあつてからば二十年  
の苦より少くもいられしと云ふ古の學者はこれがおもひ  
の學者は人のいふやまといひて人のまゝまゝまゝまゝまゝ  
あつて斗りてこの世のつが蕃城人形と同様にして  
と云ふの可なりとも難よりかば諸學者は此の世の  
この世と云ふ二十年が平生生活しては世の中よおく  
のえに世はまゝとてその後の世の地獄に死後の名は  
さほどのめあつたれば又法華の法華も無くつて

時節のあつたはより外の名あつたはより  
を法で因果應報と云ふなりまゝといふ  
由勅めあつてその果報があるものなれば  
又因なくしての果報はさういふに  
あつたはより他の力あつたはより  
があつたの果報あらはれて  
あつた決定するに  
人の一生の衣食住といふものの食の住の  
この世のあつたはより  
よひのあつたはより



死したるその時より一生涯までくらむりとあるあり  
 びよらた錢とて紙へ漬がす押たる切は一枚と豆  
 の漏るゆある種さびら一きを我が一代の給金  
 知りよもらひ受けて真途へ帰らうとるハバもや  
 けが灰とあり埋めおとさる果になんぬあゆませ  
 空を寂くたぐ一生涯がる慈を乞たくひいたる  
 いをさぶや孫よゆづれどもその子も孫もまじこ  
 終るゆを寂このあしよあしよて金銀財宝ハ  
 只我がこの世の中よ生活して居るあつこの後り  
 のよして我のあがり方があけおはは次よ子や孫

よゆづれぬとつらきむじ一も夫々の授あれが何ゆも  
 我の身よせざは慈心をなれて大切又財宝を  
 あがり孫れハ又夫よりその子や孫よその後よ  
 てあづけおんぬいぬいものあつこのあつ大地を  
 うら推ハまらぬものあつこのあつ葉ハまらぬからんぞ  
 善ゆこれよあつあつとらむとらむと親如れ子の言  
 業ゆつらむとらむとらむと去れが古人の言業又夫の  
 ハ満るびやあつあつとらむとらむと補ふと善ハ我が  
 一代又財宝を授はよ夫よりあつけられたる人ハ  
 自らあつあつとらむとらむとらむとらむとらむとらむと

こゝに在りては、わが身は、わが身の、肉の、骸を、と、これ  
から、わが身、の、中、に、は、ま、り、一、然、る、ま、は、な、り、と、の、は、  
た、る、地、一、が、ま、り、こ、も、を、縁、一、ち、が、な、り、と、の、は、  
ら、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、  
つ、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、  
何、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、  
と、第、一、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、  
あれ、ども、勅、の、行、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、  
い、ま、に、は、法、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、  
ま、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、

何の造作もなくしてつとめ行ふことも出ずること  
一坐をばじれくはあはして一家一族へしてあるは合  
一は中からある極楽まはるおとなの不可思議のまは  
この法を又人々よもしてまゝめむける千の各人  
と仕まへ自由自在よと釈迦孔子よまたびつとる  
人なりまはあは心とつとるまは平せむ安心よと何の  
あままりせよとまはまはあは心あはれはあはまはあは  
只に吉世の國は依てある果報あはれはよまはまは  
の我らがまはまはの半らむはあはまはあはまは  
我らが過失よありまはまはまはまはまはまはまは



明治廿八年二月六日印刷  
同年三月十日發行

編輯兼發行者

梅村翠山

東京市麹町區下六番町十七番地

印刷者

高田邦太郎

右全所

發行所

協信教會

右全所

特 71

707

301290-001-9

特 71-707

真仏法のさとし

梅村翠山 / 述

M28. 2

ABC-0001

